

文法で意味を読む

第二冊 範囲・時間・動作の向きを読む

何を含み、どこまで否定し、いつ・誰の側から出来事を描くか

第一回	第二回	第三回	第四回
追加・限定と 集合の範囲	否定と 全部・一部	「ている」と 時間の見え方	受け身・使役と 人物の向き

この冊で育てる力

一文に含まれる人・物の範囲、否定が及ぶところ、出来事の時間、人物の役割を整理します。形から言えることと、本文へ戻って確かめることを分け、最後は読み手が迷わない文へ整えます。

名前

使い始めた日

和会塾

この教材について

第一冊から、意味の範囲へ

第一冊では、述語を中心に、言葉のつながりや人物の役割を追いました。第二冊では、その力を使い、文がどこまでを含み、否定し、どの時間・どの人物の側から出来事を述べるかへ進みます。

一回の学び方

順	学び	すること
1	比べる	一部だけが違う文から、意味の差に気づく。
2	整理する	集合図・時間表・人物関係図で、範囲や向きをほどこ。
3	文法で確かめる	限定・否定・進行・受け身など、必要な用語を結び付ける。
4	本文へ戻る	形だけで決まらない感情・意図・自然な読みを文脈で選ぶ。
5	書き直す	量、時間、主語、動作主を補い、意味を一つにする。

自習するときの三つの約束

一	二	三
助詞や形だけを見ず、述語と比べる集まりを確かめる。	文が述べる役割と、感情・強制・許可を分ける。	模範解答の語句でなく、必要な関係で自己採点する。

第二冊の見取り図

前半では集合の範囲と否定を、後半では出来事の時間と人物の向きを読みます。四回の学びは、総合問題の時刻表・運行記録・案内文で一つにつながります。

回	中心となる問い	見るところ	できるようになること
第一回	何が加わり、何が限られる？	も／だけ／しか～ない	比較する集合を読み分ける。
第二回	「ない」はどこまで及ぶ？	全部否定／一部否定	量や対比を補い、範囲を明確にする。
第三回	「ている」はどの時間？	進行／結果／習慣	動詞と時間表現から読み分ける。
第四回	誰が働きかけ、誰が動く？	能動／受け身／使役	役割と感情・意図を分ける。

分冊総合問題

地域の乗合バスの時刻表と運行記録を読みます。運行する便の範囲、否定、走行中・閉鎖状態・日々の運行、案内された人と折り返した人を一つの資料で確かめ、最後に曖昧な案内文を書き直します。

第二冊を終えたときの目標

一	二	三
人・物・時間のどこが含まれ、限られるかを説明できる。	否定と「ている」の範囲・時間を、図や文脈で選べる。	人物の役割を整理し、感情や強制を決めつけずに書き直せる。

目次

区分	内容	頁
前付	この教材について	2
前付	第二冊の見取り図	3
第一回	「も」「だけ」「しか」で、どこまで含む？――加わるもの・限られるもの	5
解答・解説	第一回	16
第二回	「ない」は、どこまでかかる？――否定と意味の範囲	20
解答・解説	第二回	31
第三回	「ている」は、いま何を表す？――動作・状態・習慣	35
解答・解説	第三回	46
第四回	だれが動かし、だれが動く？――受け身・使役と人の役割	50
解答・解説	第四回	61
総合問題	運行記録から、意味の範囲を読む	65
解答・解説	第二冊 総合問題	73
奥付	書誌・利用について	77

「も」「だけ」「しか」で、どこまで含む？

――加わるもの・限られるもの

第二冊 第一回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	範囲や時間を整理する	文法で確かめる	文章で読み分ける	自分の文を整える

この回で大切にすること

複数の人や物の中で、何が加わり、何が限られているかを読みます。助詞だけでなく、助詞が付く言葉、述語、比べている集まりを確かめましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

三つの文は、どれも真奈が録音を送ったことを述べています。真奈以外の人について言えることを比べましょう。

A 真奈も録音を送った。

B 真奈だけが録音を送った。

C 真奈しか録音を送らなかった。

問一 三文すべてから共通して分かることを、短く書きなさい。

問二 真奈以外の人も送ったと分かる文を、一つ選びなさい。

問三 真奈以外の人には送っていないと述べる二文を選び、記号で答えなさい。

二 三つの文をほどいてみよう

比べる集まりを、○と●で整理します。○は送った人、●は文の中で取り上げられた真奈を表します。

文	真奈	真奈以外	読み取れる範囲
A	送った	送った人がいる	真奈が、その人たちに加わる
B	送った	送っていない	送った人を真奈に限る
C	送った	送っていない	送った人を真奈に限る

問一 A の「も」は、真奈についてどのような加わり方を示していますか。表をもとに説明しなさい。

問二 B と C で、送った人の範囲はどのようになりますか。

問三 B と C から、話し手が驚いたか残念に思ったかまで分かりますか。理由も短く書きなさい。

形が示すことと、気持ちを分ける

「だけ」と「しか～ない」は限定を示しますが、その限定を話し手がどう受け止めたかは、助詞だけでは決まりません。

三 文法で整理しよう

「も」「だけ」「しか」は、あるものをほかと比べて取り上げ、含まれるものや限られるものを表します。

用語・形	この回での働き	例
助詞	名詞などに付き、ほかの言葉との関係や意味を加える。	真奈＋も／だけ／しか
追加	すでに考えられているものへ、別のものが加わる。	真奈も送った
限定	当てはまるものを、ある範囲に限る。	真奈だけ／真奈しか
しか～ない	「しか」と否定の形を組み合わせ、当てはまるものを限る。	真奈しか送らなかった

どこを限っているかを見る

文	限られる範囲
真奈だけが録音を送った。	送った人
真奈は市場の音だけを送った。	真奈が送った音
真奈は朝だけ録音した。	真奈が録音した時間

問一 上の三文では、それぞれ何の範囲が限られていますか。表の言葉を使って答えなさい。

比べる集まりは文脈で決まる

「真奈だけ」とあっても、学級全員、応募した三人、家族など、誰と比べるかは前後の文脈によって変わります。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の A・B の違いとして最も適切なものを、ア～エから一つ選びなさい。

A	理央も写真を選んだ。
B	理央だけが写真を選んだ。
ア	A も B も、写真を選んだ人を理央一人に限っている。
イ	A はほかの人への追加を、B は選んだ人の限定を示す。
ウ	A は選んだ写真を、B は選んだ時間を限っている。
エ	A も B も、理央が写真を一枚だけ選んだと示す。

問二 次の文で限られているものとして最も適切なものを選びなさい。

理央は夕方だけ写真を選んだ。

ア	写真を選んだ人
イ	選んだ写真の枚数
ウ	写真を選んだ時間
エ	写真を選んだ場所

四 意味の違いを確かめよう（続き）

書き換え・説明の手がかり

助詞が付く言葉と述語を結び、何と何を比べる文かを確かめます。

問三 「部員のうち彩だけが早退した」という意味になるよう、次の文を「しか〜ない」を使って書き換えなさい。

元の文 部員のうち、早退したのは彩だけだった。

問四 「だけ」と「しか〜ない」は、いつも話し手の気持ちの強さで使い分けられると言えますか。三十字以上五十字以内で説明しなさい。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。誰の範囲と、何の範囲を述べているのかを分けて読みます。

一 地域ラジオ局では、「町の朝」という短い番組を作るため、町で聞こえる音を募集した。応募できるのは一人三点までで、録音場所は問わない。中学生の真奈、海斗、杏も身近な音を探し、真奈は市場の開店準備と寺の鐘、海斗は始発バスと踏切、杏は川辺の鳥と公園の水飲み場を録音した。三人は録音した時刻と場所を用紙へ書き、それぞれ二点ずつ送ることにした。

二 締切の日、海斗と杏が午前中に録音を送り、そのあと真奈も録音を送った。担当者は届いた六点を順に聞き、放送時間に合う三点を選んだ。採用されたのは、市場の開店準備、始発バス、川辺の鳥である。真奈が送った二点のうち、市場の音だけが採用された。寺の鐘は音が小さかったため、今回は放送に使われなかった。

三 担当者は番組紹介の下書きに「真奈だけが録音を送りました」と書いた。公開前の画面を見た海斗は、「これでは、僕と杏の録音が届いていないように見えます」と電話した。担当者が受信時刻を調べると、海斗と杏の録音も確かに残っていた。下書きは「海斗と杏に続いて、真奈も録音を送りました」と直され、採用音の欄には「真奈の録音では、市場の音だけが採用されました」と記された。

四 放送当日の朝、杏は紹介ページに「寺の鐘しか録音されなかった」という一文があることに気づいた。杏が「川辺の鳥や始発バスも録音されています」と知らせると、担当者は応募一覧と採用表をもう一度見比べた。そして、その一文を削り、「寺の鐘は録音されましたが、放送には採用されませんでした」と書き換えた。訂正後のページには、六点の録音名と、採用された三点が別々に載った。

読むときの手がかり

「も」「だけ」「しか」のすぐ前だけでなく、述語と、本文で比べている集まりを確かめましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第二段落の「真奈も録音を送った」から分かることとして最も適切なものを選びなさい。

ア	海斗と杏に加えて、真奈も録音を送った。
イ	録音を送ったのは真奈一人だけであった。
ウ	真奈が送った録音は一つだけであった。
エ	真奈の録音はすべて放送に採用された。

問二 「市場の音だけが採用された」で限られている範囲を、本文に即して答えなさい。

問三 第三段落で、担当者が最初の紹介文を直したのはなぜですか。三十字以上五十字以内で説明しなさい。

問四 第四段落の書きかけの文が事実にあわない理由として最も適切なものを選びなさい。

ア	寺の鐘は真奈ではなく、海斗が録音したから。
イ	寺の鐘は録音されたうえ、放送にも採用されたから。
ウ	録音された音は寺の鐘と市場の音の二つだけだから。
エ	寺の鐘以外にも複数の音が録音されているから。

六 集合を整理して、書き換えてみよう

●は当てはまるもの、○は当てはまらないものです。図が示す集合の範囲を、一つに伝わる文へ直しましょう。

場面	真奈	海斗	杏	書く内容
A	●	●	●	三人が応募した
B	●	○	○	真奈に限って応募した

問一 A 場面 A を、「も」を使い、海斗と杏が先に応募したことを前提にして一文で書きなさい。

問一 B 場面 B を、「しか～ない」を使って一文で書きなさい。

真奈が録音した音	録音	放送
市場の準備	●	●
寺の鐘	●	○

問二 A 表の「放送」の範囲を、「だけ」を使って一文で書きなさい。

問二 B 録音された音と放送された音を混同しないよう、表全体を二文で説明しなさい。

七 自分のことばで説明しよう

問一 「真奈だけが送った」と「真奈は市場の音だけを送った」では、何の範囲が異なりますか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問二 「真奈しか送らなかった」という一文だけでは、真奈が残念に思ったかどうかを決められないのはなぜですか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

説明するときの順序

一 助詞が付く言葉を見る 二 述語を見る 三 何と何を比べる文脈かを確認する。

八 この回のまとめ

一	二	三
「も」は、ほかに当てはまるものがある中へ追加する。	「だけ」「しか～ない」は、当てはまる範囲を限る。	何を限るかは、助詞が付く言葉・述語・文脈で確かめる。
学習を終えて		
「も」と「だけ」を、追加と限定で説明できた。		
人・物・時間のどこが限られるかを見分けられた。		
限定の形だけから、話し手の気持ちを決めつけなかった。		

次の回へ

次は、「ない」がどの集まりや動作へかかるかを読みます。この回で見た集合の範囲を、そのまま否定の読みへつなげます。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解か不正解かだけで終わらず、どの範囲・時間・人物を見たかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え 真奈が録音を送ったこと。

見るところ 三文で共通する主語と述語だけを取り出します。

問二

答え A

見るところ 「も」は、真奈以外にも当てはまる人がいる中へ真奈を加えます。

問三

答え B・C

見るところ 「だけ」と「しか〜ない」は、送った人を真奈に限ります。

二 三つの文をほどいてみよう

問一

答え ほかに録音を送った人がいる中へ、真奈も加わったことを示す。

見るところ 真奈だけを見るのではなく、追加される前の集まりを考えます。

問二

答え 録音を送った人が真奈一人に限られる。

見るところ Bは肯定の「だけ」、Cは「しか」と否定の組合せですが、ここでの範囲は同じです。

問三

答え 分からない。二文は送った人の範囲を示すだけで、話し手の感情は述べていない。

見るところ 限定の形と、話し手が限定をどう受け止めたかを分けます。

三 文法で整理しよう

問一

答え 一文目は送った人、二文目は送った音、三文目は録音した時間。

見るところ 「だけ」が付くまとまりと、述語との関係を見ます。

四 意味の違いを確かめよう

問一

答え イ

見るところ Aは追加、Bは人の限定です。写真の枚数はどちらも述べていません。

問二

答え ウ

見るところ 「だけ」は「夕方」に付き、選んだ時間を限ります。

問三

答え 部員のうち、彩しか早退しなかった。

見るところ 「しか」と否定の形「しなかった」を組み合わせます。

別解例 早退した部員は、彩しかいなかった。

☆自己採点の観点 ①彩に限定、②「しか」と否定が対応、の二点を確かめる。

問四

答え 言えない。どちらも範囲を限る形で、話し手の感情は前後の文脈で確かめるから。（三十七字）

見るところ 形式が示す限定と、話し手の評価・感情を分けます。

別解例 いつもは言えない。限定を残念に思うか十分だと思うかは、別の表現を読まなければ分からない。（四十四字）

☆自己採点の観点 ①気持ちだけで区別できない、②感情は文脈で確かめる、の二点を含める。

五 文章の中で読もう

問一

答え ア

見るところ 直前に海斗と杏が送ったとあるため、真奈がその集まりへ加わります。

問二

答え 真奈が送った二つの録音のうち、放送に採用された音。

見るところ 応募者全体ではなく、真奈の録音の中の採用範囲です。

問三

答え 海斗と杏も録音を送っており、真奈一人に応募者を限る文では事実と異なるから。(三十七字)

見るところ 「だけ」が誰を限定する文になっていたかを説明します。

別解例 真奈以外の二人も応募したため、送った人を真奈だけに限る紹介文は正しくないから。(三十九字)

★自己採点の観点 ①海斗・杏も送った、②真奈だけに限定すると誤り、の二点を含める。

問四

答え エ

見るところ 市場、始発バス、踏切、鳥、水飲み場など、寺の鐘以外も録音されています。

六 集合を整理して、書き換えてみよう

問一 A

答え 海斗と杏に続いて、真奈も応募した。

見るところ 二人が当てはまる集まりへ真奈を追加します。

別解例 海斗と杏が応募し、真奈も応募した。

★自己採点の観点 ①三人が応募、②真奈を追加する「も」、の二点が伝わるか。

問一 B

答え 三人のうち、真奈しか応募しなかった。

見るところ 比較する三人を示し、真奈以外を否定します。

別解例 応募したのは、三人の中では真奈しかいなかった。

★自己採点の観点 ①比較集合は三人、②応募者は真奈のみ、③否定の形、を確かめる。

問二 A

答え 真奈の録音では、市場の準備の音だけが放送された。

見るところ 限定するのは録音された音ではなく、放送された音です。

別解例 放送された真奈の録音は、市場の準備の音だけだった。

★自己採点の観点 ①真奈の録音内の比較、②放送は市場のみ、を含める。

問二 B

答え 真奈は市場の準備と寺の鐘を録音した。放送されたのは、市場の準備の音だけだった。

見るところ 録音の範囲と放送の範囲を二文に分けます。

別解例 市場の準備と寺の鐘は録音されたが、放送には市場の音だけが使われた。

｜ほかの答え方・考え方 一文にするなら「A と B を録音したが、放送は A だけ」と対比してもよい。

☆自己採点の観点 ①二音を録音、②放送は市場のみ、③二つの範囲を混同しない、を確かめる。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え 前者は録音を送った人を真奈に限り、後者は真奈が送った音を市場の音に限る。（三十六字）

見るところ 主語の範囲と、目的語の範囲を分けます。

別解例 一文目で限るのは送信者、二文目で限るのは真奈が送信した録音の種類である。（三十六字）

☆自己採点の観点 ①前者は人、②後者は音、の二点を明記する。

問二

答え その文が示すのは送った人の限定で、真奈がそれをどう感じたかまでは述べていないから。（四十一字）

見るところ 限定と感情を区別します。

別解例 送信者が真奈一人だとは読めるが、その状況への真奈の評価や気持ちは書かれていないから。（四十二字）

☆自己採点の観点 ①限定は読める、②感情は読めない、の両方を含める。

「ない」は、どこまでかかる？

――否定と意味の範囲

第二冊 第二回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	範囲や時間を整理する	文法で確かめる	文章で読み分ける	自分の文を整える

この回で大切にすること

「全員」と「ない」が一つの文にあると、誰も当てはまらない読みと、一部は当てはまる読みが生まれることがあります。否定が及ぶ範囲を図と文脈で確かめます。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

次の三文は、参加者が来たかどうかを述べています。何人来たと読めるかを比べましょう。

A 参加者全員が来なかった。

B 参加者は一人も来なかった。

C 参加者全員が来たわけではない。

問一 誰も来なかったことが一つに決まる文を選びなさい。

問二 来た人もいることを表す文を選びなさい。

問三 Aは何通りに読めますか。それぞれ短く説明しなさい。

二 否定の範囲をほどいてみよう

八人の参加者を●（来た）と○（来なかった）で表します。文の形がどの図まで許すかを確かめます。

読み	八人の様子	表す内容
①	○○○○○○○○	一人も来なかった
②	●●●●●●○○	全員がそろったわけではない

問一 A は①・②のどちらの読みを表せますか。

問二 B と C を、それぞれ①・②へ結びなさい。

問三 A だけでは来た人数を一つに決められない理由を、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

二つの否定

全員について「来た」を否定する読みと、「全員である」ことだけを否定する読みがあります。前後の文がなければ曖昧になることがあります。

三 文法で整理しよう

「ない」は動作・状態を打ち消しますが、量を表す言葉と組み合わせると、否定が及ぶ範囲に注意が必要です。

用語・形	意味	この回の例
否定	動作・状態・判断などが成り立たないと述べる。	来なかった
全部否定	集まりのどの成員にも当てはまらない。	一人も来なかった
一部否定	集まりの全てに当てはまることを打ち消す。	全員が来たわけではない
範囲	否定される人・物・動作のまとまり。	参加者／作品／焼成

明確にする表現

伝えたい意味	使える形
誰も来なかった	一人も～ない／誰も～ない
来ない人もいた	全員が～わけではない／～ない人もいる
どれも完成しなかった	一つも～ない／どれも～ない

問一 「全員が来たわけではない」は、全部否定と一部否定のどちらですか。

語順だけで決めない

語順は手掛かりになりますが、いつも一つの規則で決まるわけではありません。量を示す言葉や具体的な人数を補うと明確になります。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の文が表す内容として最も適切なものを選びなさい。

荷物は一つも届かなかった。

- | | |
|---|-------------------|
| ア | 荷物の一部だけが届いた。 |
| イ | 荷物は全部届いたが、遅れた。 |
| ウ | 届いた荷物は一つもなかった。 |
| エ | 届かなかった荷物は一つだけだった。 |

問二 次の文が表す内容として最も適切なものを選びなさい。

荷物が全部届いたわけではない。

- | | |
|---|--------------------|
| ア | 荷物は一つも届いていない。 |
| イ | 荷物は全部届き、開封も終わった。 |
| ウ | 届いた荷物があるかどうか分からない。 |
| エ | 届いた荷物もあるが、全部ではない。 |

四 意味の違いを確かめよう（続き）

書き換え・説明の手がかり

誰も当てはまらないのか、一部は当てはまるのかが一つに伝わる語を補います。

問三 「委員全員が賛成しなかった」を、誰も賛成しなかった意味に書き換えなさい。

問四 同じ元の文を、賛成した委員もいた意味に書き換えなさい。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。人数、作品、作業段階のどこへ否定が及ぶかを確かめます。

一 町の陶芸体験会には八人が予約していた。開始時刻までに六人が工房へ着き、二人は体調不良で欠席した。受付係は参加記録へ印を付けたあと、講師へ「予約者全員が来なかった」と伝えた。講師は道具をいくつ並べるか迷い、「六人は来たのですか。それとも、一人も来なかったのですか」と尋ねた。受付係は名簿を見直し、「六人が参加し、二人が欠席しました」と言い直した。

二 作業では、参加者が小皿か湯飲みを一つ選び、粘土の形を整えた。六人のうち四人は時間内に形を完成させたが、二人は模様を考え直し、次回に続きをすることにした。係が「参加者全員が作品を完成させたわけではない」と記録すると、完成した四人の一人が「私たちの作品も途中だと思われませんか」と尋ねた。係は、その下に「四人は完成し、二人は制作を続ける」と書き加えた。

三 終了後、完成した四点は乾燥棚へ置かれ、途中の二点は名前を付けた箱へ保管された。割れた作品は一つもなかった。係は作業日誌に「作品は全部焼かなかった」と書いたが、それを見た講師は「一部は焼いたということですか」と尋ねた。この日は成形だけで、窯へ入れた作品はない。係は日誌を消し、「この日は、どの作品もまだ焼いていない。焼成は翌週に行う」と書き直した。

四 翌日、工房から参加者へ報告が送られた。そこには、「予約八人のうち六人が参加し、二人が欠席しました。六点のうち四点は形が完成し、二点は制作途中です。どの作品もまだ焼いていません。完成した四点は乾燥棚に、途中の二点は保管箱にあります」と記されていた。参加者は、自分の作品がどこにあり、次に何をするのかを、それぞれ確認することができた。

読むときの手がかり

曖昧な一文に出会ったら、人数や個数が具体的に書かれた前後の文へ戻りましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第一段落の最初の伝え方が曖昧だった理由として最も適切なものを選びなさい。

ア	予約者の人数そのものが本文に書かれていないから。
イ	全員欠席とも、全員はそろわなかったとも読めるから。
ウ	受付係と講師のどちらが欠席したか分からないから。
エ	来た人が作品を完成させたかどうかを述べているから。

問二 第二段落の「全員が作品を完成させたわけではない」を、人数を使って具体的に説明しなさい。

問三 第三段落の記録を「どの作品もまだ焼いていない」と直したのはなぜですか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問四 本文全体が勧めている書き方として最も適切なものを選びなさい。

ア	人数や段階を補い、否定の範囲を一つにする。
イ	「ない」を全て削り、肯定の文だけで報告する。
ウ	「全員」「全部」を使えば、人数を書かなくてよい。
エ	読み手が常識で補えるよう、曖昧なまま残しておく。

六 範囲を整理して、書き換えてみよう

●は当てはまる人・物、○は当てはまらない人・物です。図と記録が一つに伝わる文へ直します。

場面	●	○	伝える内容
A	0 人	8 人	誰も参加しなかった
B	6 人	2 人	参加しない人もいた

問一 A 場面 A を、「一人も～ない」を使って一文で書きなさい。

問一 B 場面 B を、「全員が～わけではない」を使って一文で書きなさい。

作品	完成	未完成
六点	四点	二点

問二 A 表を、「全部～わけではない」を使って一文で書きなさい。

問二 B 完成した作品も未完成の作品もあることが、より具体的に伝わる二文へ書き換えなさい。

七 自分のことばで説明しよう

問一 全部否定と一部否定の違いを、「範囲」という言葉を使い、四十～六十字で説明しなさい。

問二 曖昧な否定文を明確にする方法を、二つ挙げて四十～六十字で説明しなさい。

説明の手掛かり

「一人も」「～ない人もいる」「六人のうち二人」など、量や対比を示す言葉を使います。

八 この回のまとめ

一	二	三
「全員＋ない」は、全部否定と一部否定の両方に読めることがある。	「一人も～ない」は全部否定、「全員が～わけではない」は一部否定。	人数・個数・対比を補うと、否定の範囲を明確にできる。
学習を終えて		
全部否定と一部否定を図で分けられた。		
否定がどの人・物・動作へ及ぶか確かめられた。		
量を表す言葉を補い、明確な文へ直せた。		

次の回へ

次は、同じ「ている」が、今の動作、変化の結果、繰り返す習慣のどれを表すか、時間の流れから読みます。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解か不正解かだけで終わらず、どの範囲・時間・人物を見たかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え B

見るところ 「一人も～ない」は、当てはまる人がゼロであることを示します。

問二

答え C

見るところ 「全員が～わけではない」は全員であることを否定し、来た人の存在を残します。

問三

答え 一人も来なかった読みと、来た人はいるが全員はそろわなかった読み。

見るところ 否定が「来た」全体へ及ぶか、「全員」という範囲だけへ及ぶかを分けます。

二 否定の範囲をほどいてみよう

問一

答え ①・②の両方

見るところ A だけでは、八人全員が欠席したか、一部だけ欠席したかが決まりません。

問二

答え B-①、C-②

見るところ B はゼロ人、C は全員ではないため一部の参加を示します。

問三

答え 否定が「来た」全体に及ぶか、「全員である」ことだけに及ぶか、一文では決まらないから。（四十二字）

見るところ 二つの否定範囲を挙げます。

別解例 全員について来なかったとも、来た人はいるが全員ではないとも読める形だから。(三十七字)

★自己採点の観点 ①誰も来ない読み、②一部は来る読み、の両方を示す。

三 文法で整理しよう

問一

答え 一部否定

見るところ 全員であることは否定しますが、来た人の存在は否定しません。

四 意味の違いを確かめよう

問一

答え ウ

見るところ 「一つも～ない」は、届いた荷物がゼロであることを示します。

問二

答え エ

見るところ 全部であることだけを打ち消すため、届いた荷物はあります。

問三

答え 委員は一人も賛成しなかった。

見るところ 賛成した人数をゼロにします。

別解例 賛成した委員は一人もいなかった。

★自己採点の観点 誰も賛成していない意味が一つに決まるか。

問四

答え 委員全員が賛成したわけではない。

見るところ 賛成者はいるが、全員一致ではない形にします。

別解例 賛成しなかった委員もいた。

★自己採点の観点 賛成者の存在を否定せず、全員一致だけを否定しているか。

五 文章の中で読もう

問一

答え イ

見るところ 八人全員が欠席した読みと、六人参加・二人欠席の読みが生まれます。

問二

答え 六人のうち四人は完成させたが、二人はまだ途中である。

見るところ 一部否定を具体的な人数へ戻します。

問三

答え 「全部焼かなかった」では一部だけ焼かなかった読みも生まれるため、どれも未焼成だと明示した。(四十五字)

見るところ 元の文の曖昧さと、書き直した範囲を説明します。

別解例 一部は焼いたとも読める表現を避け、この日は全作品が未焼成だと一つに伝えるため。(三十九字)

☆自己採点の観点 ①一部否定の読みを避ける、②全作品が未焼成、を含める。

問四

答え ア

見るところ 最初の伝え方と書き直した記録を比べると、人数・個数・作業段階が具体的に補われています。

六 範囲を整理して、書き換えてみよう

問一 A

答え 予約者は一人も参加しなかった。

見るところ 参加者がゼロであることを明示します。

別解例 八人のうち、一人も体験会へ来なかった。

☆自己採点の観点 比較する予約者と、参加ゼロが伝わるか。

問一 B

答え 予約者全員が参加したわけではない。

見るところ 参加者はいますが、八人全員ではありません。

別解例 予約者の中には、参加しなかった人もいた。

☆自己採点の観点 六人の参加を否定せず、一部欠席を表せているか。

問二 A

答え 六点の作品が全部完成したわけではない。

見るところ 完成した作品の存在を残し、全点完成だけを否定します。

別解例 参加者の作品は、全部が完成したわけではない。

★自己採点の観点 全部否定にならず、一部未完成を表すか。

問二 B

答え 六点のうち四点は完成した。残る二点は、まだ途中である。

見るところ 完成と未完成の個数をそれぞれ示します。

別解例 作品は四点が完成し、二点は未完成のまま保管された。

ほかの答え方・考え方 一文なら「四点は完成したが、二点は途中である」と対比できます。

★自己採点の観点 ①完成四点、②未完成二点、③合計六点、を確かめる。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え 全部否定は集まりのどの成員にも当てはまらず、一部否定は全てに及ぶ範囲だけを打ち消す。(四十二字)

見るところ ゼロになる読みと、一部を残す読みを対比します。

別解例 全部否定では当てはまるものがなく、一部否定では当てはまるものもあるが全体の範囲ではない。(四十四字)

★自己採点の観点 ①全部否定はゼロ、②一部否定は一部が残る、③範囲を使用、を満たす。

問二

答え 一人も・一部はなど量を示す語を補うか、具体的な人数や個数を示して否定の範囲を決める。(四十二字)

見るところ 量の表現と具体的な数という二方法を挙げます。

別解例 「誰も」「～ない人もいる」と対比を加えたり、六人中二人など具体的な数を書いたりする。(四十二字)

★自己採点の観点 明確化の方法を二つ挙げ、否定範囲との関係を示す。

「ている」は、いま何を表す？

――動作・状態・習慣

第二冊 第三回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	範囲や時間を整理する	文法で確かめる	文章で読み分ける	自分の文を整える

この回で大切にすること

同じ「ている」でも、動作の途中、変化後の状態、繰り返す習慣を表します。動詞の性質、時間を示す言葉、前後の出来事を合わせて読み分けましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

三文の「ている」は、どれも同じ時間の見え方でしょうか。今見える様子を言葉にして比べます。

A 水車が回っている。

B 水路がふさがっている。

C 管理人は毎朝点検している。

問一 今まさに動作が進んでいる様子を表す文を選びなさい。

問二 変化が起きたあとの状態が続いている文を選びなさい。

問三 繰り返し行う習慣を表す文を選び、その手掛かりも答えなさい。

二 時間の流れをほどいてみよう

「ている」の前にある変化や、あとに続く時間を、時間表へ置いて考えます。

文	それより前	観察した時	読み
A	回り始めた	回る動作の途中	進行
B	枝が詰まった	詰まった状態が続く	結果の状態
C	以前から点検	その日も行う	反復・習慣

問一 A と B では、観察した時に何が続いていますか。それぞれ答えなさい。

問二 C を、一日中休まず点検し続けている意味に決めてよいですか。理由も書きなさい。

問三 三文を読み分けるために、「ている」以外のどのような手掛かりを見ればよいですか。二つ挙げなさい。

時間を一点だけで見ない

観察した時だけでなく、その前に変化があったか、同じことが別の日にも繰り返されるかを確かめます。

三 文法で整理しよう

「ている」は、動作の途中だけでなく、変化の結果や反復する行動も表します。

読み	意味	例
進行	ある時点で、動作が進んでいる。	水車が回っている
結果の状態	変化が起き、その結果が残っている。	水路がふさがっている
反復・習慣	同じ行動が、時間を置いて繰り返される。	毎朝点検している

動詞と時間表現を合わせる

手掛かり	働き
いま・ちょうど	進行中の動作を読みやすくする
すでに・もう	変化後の状態へ目を向ける
毎朝・いつも・週に一度	反復・習慣を示す

問一 「窓が開いている」は、開ける動作の途中と、開いたあとの状態のどちらを表すのが自然ですか。

形だけで決めない

動詞の意味と文脈によっては、二つの読みが成り立つこともあります。時間を示す言葉や前後の出来事を合わせます。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の文の「ている」が表すものとして最も適切なものを選びなさい。

舞台では、今、幕が上がっている。

- | | |
|---|-------------|
| ア | 幕が上がる動作の途中 |
| イ | 幕が上がったあとの状態 |
| ウ | 毎日幕を上げる習慣 |
| エ | これから幕を上げる予定 |

問二 次の文の「ている」が表すものとして最も適切なものを選びなさい。

入り口の鍵は、もう閉まっている。

- | | |
|---|--------------|
| ア | 鍵を閉める動作の途中 |
| イ | 鍵を閉めたあとの状態 |
| ウ | 毎晩鍵を閉める習慣 |
| エ | まだ鍵を閉めていない状態 |

四 意味の違いを確かめよう（続き）

書き換え・説明の手がかり

「今」「もう」「毎週」など、時間を一つに定める言葉を補います。

問三 「父は庭を手入れしている」を、今まさに作業中だと一つに伝わる文へ書き換えなさい。

問四 同じ文を、毎週の習慣だと一つに伝わる文へ書き換えなさい。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。時刻、変化、繰り返しの表現を手掛かりにします。

一 町の資料館の裏には、昔の製粉に使われた小さな水車が残っている。今は地域の人が水路と水車を整備し、土曜日だけ見学できる。管理人の榎さんは毎朝点検している。月曜日は水路の落ち葉を除き、火曜日は木の板の傷を見つけ、水曜日は軸へ油を差した。見学日でない日も、榎さんは午前七時に水路へ行き、点検を終えると時刻と様子を記録帳へ書く。

二 ある土曜日の午前九時、見学者が着くと、水車がゆっくり回っていた。水が羽根を押すたびに木の軸も動き、粉をひくための石が音を立てた。見学者は柵の外から、羽根が一周するまでの時間を測った。ところが九時十分、上流から流れてきた枝が細い水路へ引っかかり、水の勢いが弱くなった。回転は次第に遅くなり、やがて水車は止まったため、見学はいったん中断された。

三 榎さんが上流を確かめると、水路が枝と落ち葉でふさがっていた。細い場所に枝が横たわり、その周りへぬれた落ち葉が重なっている。水は隙間から少し流れるだけで、その様子は枝を取り除くまで変わらなかった。榎さんは安全柵の外から長い道具を使い、まず落ち葉を寄せ、最後に枝を引き上げた。水が再び流れ始めると、水車もゆっくり動き始めた。

四 榎さんは記録帳に、「午前九時には水車が回っていた。九時十分には水路がふさがっていた。九時二十五分、枝を取り除くと水車が再び動いた」と書いた。見学者の一人は、前の週の頁にも「管理人は毎朝点検している」とあることに気づいた。翌日の日曜日も、榎さんは午前七時に水路を確かめ、土曜日の枝が残っていないことを記録した。

読むときの手がかり

同じ「ている」でも、動詞の性質と、「午前九時」「毎朝」などの時間表現を合わせて読みましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第一段落の「点検している」が表すものとして最も適切なものを選びなさい。

ア	一度の点検が一日中続いていること
イ	点検を終えた状態だけが残っていること
ウ	これから初めて点検する予定であること
エ	日を置いて毎朝点検を繰り返すこと

問二 第二段落の「回っていた」は、進行と結果の状態のどちらですか。本文の様子も使って答えなさい。

問三 第三段落の「ふさがっていた」が結果の状態を表す理由を、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問四 本文の三つの「ている」を読み分けるとき、照合すべき手掛かりとして最も適切なものを選びなさい。

ア	文の長さと、漢字の数
イ	話し手の年齢と、声の大きさ
ウ	それぞれの動作・変化と、時刻・頻度の表現
エ	段落の数と、読点の位置

六 時間を整理して、書き換えてみよう

時間表のうち、答案へ入れるべき情報を確かめ、読みが一つになる文へ整えます。主語・時間表現・述語を変えてもかまいません。

場面	前	観察した時	あと
A	八時五十九分まで静止	九時に動き始め、動作中	九時十分に停止
B	前夜に扉を閉めた	朝も閉じた状態	係が開けた

問一 A 場面 A を、「いま」と「ている」を使い、九時の様子が一つに伝わる文にしない。

問一 B 場面 B を、「すでに」と「ている」を使い、朝の様子が一つに伝わる文にしない。

人	頻度	行動
榊さん	毎朝	水路を点検する
保存会	月に一度	木部へ油を塗る

問二 A 一行目を、「ている」を使い、習慣が伝わる一文にしない。

問二 B 二行目も同じように一文へ直し、一度きりの作業と誤解されない工夫をしない。

七 自分のことばで説明しよう

問一 進行と結果の状態の違いを、時間の流れに触れて四十～六十字で説明しなさい。

問二 「ている」だけで読みを決めず、ほかの表現を見る必要があるのはなぜですか。四十～六十字で説明しなさい。

説明の手掛かり

動作が続くのか、変化の結果が続くのか、別の時にも繰り返されるのかを分けます。

八 この回のまとめ

一	二	三
「ている」は、進行中の動作を表す。	変化のあとに残る状態を表すことがある。	時間表現と文脈により、反復・習慣も表す。
学習を終えて		
進行・結果の状態・習慣を時間表で分けられた。		
動詞と時間表現を合わせて読めた。		
「ている」の読みを一つにする文へ直せた。		

次の回へ

次は、一つの出来事を誰の側から述べるか、また、誰がほかの人を動かし、誰が実際に動くかを読みます。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解か不正解かだけで終わらず、どの範囲・時間・人物を見たかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え A

見るところ 回るという動作が観察時点で進んでいます。

問二

答え B

見るところ 枝などが詰まる変化のあと、ふさがった状態が残っています。

問三

答え C。手掛かりは「毎朝」。

見るところ 同じ行動が別の日にも繰り返されることを示します。

二 時間の流れをほどいてみよう

問一

答え A は回る動作、B は枝が詰まったあとの状態。

見るところ 続くものが動作そのものか、変化後の状態かを分けます。

問二

答え 決めてはいけない。「毎朝」は日ごとの反復を示し、一回の動作が一日中続くとは述べていない。

見るところ 習慣と、一度の長い進行を混同しません。

問三

答え 動詞の意味と、時刻・「毎朝」などの時間表現。

見るところ 必要なら、前に起きた変化やあとの出来事も見ます。

三 文法で整理しよう

問一

答え 開いたあとの状態。

見るところ 窓が開く変化は終わり、開いた状態が続いています。

四 意味の違いを確かめよう

問一

答え ア

見るところ 「今」と、上がるという変化の途中が組み合わされています。

問二

答え イ

見るところ 「もう」は、閉める変化が済み、その状態が残る読みを支えます。

問三

答え 父は今、庭を手入れしている。

見るところ 「今」「ちょうど」などで観察時点の進行を示します。

別解例 父はちょうど庭の手入れをしているところだ。

★自己採点の観点 今まさに作業中だと一つに読めるか。

問四

答え 父は毎週、庭を手入れしている。

見るところ 「毎週」などで複数回の反復を示します。

別解例 父は週末になると、庭の手入れをしている。

★自己採点の観点 一度の進行ではなく、繰り返す習慣だと分かるか。

五 文章の中で読もう

問一

答え エ

見るところ 「毎朝」と、見学日以外にも行うという記述が反復を示します。

問二

答え 進行。水が羽根を押し、軸が動く様子を、その時点で見られた。

見るところ 観察時に動作が続いている描写へ戻ります。

問三

答え 枝と落ち葉が詰まる変化はすでに起こり、観察時には水路を塞ぐ状態が残っていたから。（四十字）

見るところ 先に起きた変化と、その後に残った状態を示します。

別解例 枝が詰まったあとも水が通りにくい状態が続く、榊さんがその結果を確かめたから。（三十八字）

★自己採点の観点 ①詰まる変化、②結果の状態が継続、の二点を含める。

問四

答え ウ

見るところ 回る・ふさがる・点検するという出来事を、九時・九時十分・毎朝などの表現と照合します。

六 時間を整理して、書き換えてみよう

問一 A

答え 午前九時、水車はいま回っている。

見るところ 観察時点と進行中の動作を入れます。

別解例 水車は九時に動き始め、いま回っている。

★自己採点の観点 ①九時、②今、③回る動作の途中、が伝わるか。

問一 B

答え 朝には、入り口の扉はすでに閉まっている。

見るところ 前夜の変化が終わり、朝も状態が続くことを表します。

別解例 扉は前夜に閉められ、朝もすでに閉まっている。

★自己採点の観点 閉める途中ではなく、閉じた状態だと分かるか。

問二 A

答え 榊さんは毎朝、水路を点検している。

見るところ 頻度を示す「毎朝」を入れます。

別解例 榊さんは朝になると、いつも水路を点検している。

★自己採点の観点 日を置いて繰り返す習慣が伝わるか。

問二 B

答え 保存会は月に一度、木部へ油を塗っている。

見るところ 一度きりでなく、月ごとの反復を明示します。

別解例 保存会は毎月一回、水車の木部へ油を塗っている。

｜ほかの答え方・考え方 「定期的に」を使ってもよいが、表にある頻度を残すとさらに明確です。

☆自己採点の観点 ①保存会、②月一回、③油を塗る、の三点を含める。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え 進行は観察した時にも動作が続き、結果の状態は先の変化が終わったあと、その状態が続く。（四十二字）

見るところ 観察時より前の変化が終わったかどうかを対比します。

別解例 進行では動作そのものの途中を見ており、結果の状態では変化後に残った様子を見ている。（四十一字）

☆自己採点の観点 ①進行は動作中、②結果は変化後、③継続、を含める。

問二

答え 同じ形が進行・結果の状態・習慣を表すため、動詞の性質や時間表現、前後の文脈が必要だから。（四十四字）

見るところ 複数の読みと、それを選ぶ手掛かりを示します。

別解例 「ている」だけでは時間の見え方が一つに決まらず、時刻や頻度、先に起きた変化を合わせるから。（四十五字）

☆自己採点の観点 ①三つの読み、②ほかの手掛かりが必要、を説明する。

だれが動かし、だれが動く？

――受け身・使役と人の役割

第二冊 第四回

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	範囲や時間を整理する	文法で確かめる	文章で読み分ける	自分の文を整える

この回で大切にすること

出来事を誰の側から述べるか、働きかける人と実際に動く人は誰かを整理します。受け身を迷惑、使役を強制と決めつけず、本文のほかの言葉へ戻ります。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

同じ紙作りの場面でも、文の形によって前に出る人物と、実際に動く人物が変わります。

A 職人が奏に紙のすき方を教えた。

B 奏は職人に紙のすき方を教えられた。

C 職人は参加者に和紙をすかせた。

問一 A と B は、同じ出来事を誰の側から述べていますか。それぞれ答えなさい。

問二 C で、実際に和紙をすく人は誰ですか。

問三 C だけから、参加者が無理に作業させられたと決められますか。理由も短く書きなさい。

二 人物の役割をほどいてみよう

→は働きかけの向き、●は文の主語、★は実際に中心の動作をする人を表します。

文	主語●	働きかけ→	動作する人★	述べる側
A	職人	職人→奏	職人（教える）	職人
B	奏	職人→奏	職人（教える）	奏
C	職人	職人→参加者	参加者（すく）	職人

問一 A と B で変わらない人物関係と、変わるところを一つずつ答えなさい。

問二 C では、主語と、実際に「すく」動作をする人が異なります。それぞれ答えなさい。

問三 B の受け身の形だけから、奏の気持ちについてどこまで分かりますか。

出来事と受け取り方を分ける

受け身は出来事を受ける人の側から述べますが、その人が迷惑・感謝・無関心のどれだったかは、別の表現で確かめます。

三 文法で整理しよう

能動・受け身・使役は、出来事に関わる人物を、どの位置から述べるかを整理する形です。

用語	この回での意味	例
能動	動作をする人を主語にして述べる。	職人が教えた
受け身	動作を受ける人・物を主語にして述べる。	奏は教えられた
使役	ある人が、ほかの人に動作をさせることを述べる。	職人は参加者にすかせた
動作主	その動作を実際に行う人。	教える職人／すく参加者

形だけでは決まらないこと

形から読めること	ほかの文脈が必要なこと
誰が誰へ働きかけたか	立場の上下、話し方の強さ
誰の側から出来事を述べるか	迷惑、喜び、感謝などの気持ち
誰が実際の動作をするか	強制、許可、勧めのどれか

問一 「先生は生徒に本を読ませた」で、本を読む人は誰ですか。

「させた」＝強制ではない

本人の希望を認めた場合も、必要な仕事を命じた場合も使えます。どちらかは場面を示す言葉で確かめます。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の A を、古い額の側から述べる受け身の文へ書き換えなさい。

A 修復員が古い額を直した。

問二 書き換えの前後で、変わるものとして最も適切なものを選びなさい。

ア	額を直した人
イ	額を直した時刻
ウ	額を直した方法
エ	出来事を述べる側

四 意味の違いを確かめよう（続き）

書き換え・説明の手がかり

文の形が示す人物の役割と、感情・強制の有無とを分けて考えます。

問三 次の文から分かることとして最も適切なものを選びなさい。

監督は選手に自由に走らせた。

ア	監督自身が選手の代わりに走った。
イ	選手は嫌がったが、無理に走らされた。
ウ	実際に走ったのは選手で、走り方には裁量があった。
エ	選手は走らず、監督の説明だけを聞いた。

問四 受け身は必ず迷惑、使役は必ず強制、と決められない理由を、三十字以上五十字以内で説明しなさい。

五 文章の中で読もう

次の文章を読み、次のページの問いに答えなさい。形から読める役割と、本文で確かめる気持ち・意図を分けます。

一 和紙工場の体験会に、奏を含む五人の中学生が参加した。最初に職人の新井さんが、原料を水へ広げ、木枠を前後へ動かす手順を実演した。奏は新井さんに紙のすき方を教えられた。新井さんが木枠を傾けて見せると、奏は同じ向きを手元の紙へ描き、「水を切るときは、急に立てないのですね」と確かめた。新井さんはうなずき、木枠の両端を持つよう伝えた。

二 実演のあと、新井さんは参加者に一枚ずつ和紙をすかせた。新井さんは安全上の注意を伝え、一人ずつ木枠の持ち方を確かめた。参加者は順番に水槽の前へ立ち、自分の手で木枠を前後へ動かした。奏は申込書の希望欄に「紙すきをしてみたい」と書いており、前の人が作業する間も、水の広がり方をじっと見ていた。名前を呼ばれると、すぐに立ち上がって水槽へ向かった。

三 乾燥棚の近くでは、参加者の颯太が布の下にある道具を見ようと手を伸ばし、係員に止められた。棚には、乾燥中の紙と熱を持つ器具が置かれていた。係員が「形が崩れるうえ、器具はまだ熱いので、赤い線の外から見てください」と伝え、颯太は手を引き、「気づかなかった。教えてくれてありがとうございます」と答えた。その後は、係員に尋ねてから別の棚を見学した。

四 体験後、奏は感想用紙に「自分で木枠を動かしてうれしかった。次はもっと薄い紙を作りたい」と書いた。颯太は「乾燥棚では、見る場所を先に確かめたい」と記した。工房の報告には、新井さんが参加者へ手順を説明したこと、五人が一枚ずつ紙をすいたこと、乾燥棚では係員が颯太を止めたことが、時間の順に記録された。完成した紙は、乾燥後に参加者へ送られることになった。

読むときの手がかり

主語、助詞、述語から人物の役割を整理し、強制・許可・気持ちは会話や行動へ戻って確かめましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第一段落の「教えられた」は、出来事を誰の側から述べていますか。

ア	説明を受けた奏の側
イ	説明した新井さんの側
ウ	見学した係員の側
エ	原料を準備した人の側

問二 第二段落の「すかせた」で、働きかけた人と、実際に木杵を動かした人を答えなさい。

問三 この場面の「すかせた」を、強制より機会を与えた意味に読める根拠を、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問四 第三段落の「颯太が係員に止められた」という一文だけから言えることとして、最も適切なものを選びなさい。

ア	受け身なら、止められた人は必ず不満を抱く。
イ	止められた事実は読めるが、感情は一文だけで決まらない。
ウ	係員が止めたかどうかは、受け身の文から分らない。
エ	教えられた文と止められた文は、出来事も感情も同じである。

六 人物の役割を整理して、書き換えてみよう

→は働きかけ、★は実際の動作、♡は本人の希望を表します。図の情報を落とさず、形だけでは伝わらない意図も必要な範囲で補います。

場面	働きかけ	実際の動作★	希望・事情
A	新井 → 奏	奏：紙をすく	奏♡体験したい
B	係員 → 見学者	見学者：区域を出る	安全のため

問一 A 場面 A を、「させた」を使い、奏の希望も一つに伝わる文へ書き換えなさい。

問一 B 場面 B を、見学者の側から述べる受け身の文へ書き換えなさい。

元の文	変えない出来事	新しい述べる側
職人が奏へ手順を説明した。	職人 → 奏：説明	奏
保存会が作品を展示した。	保存会 → 作品：展示	作品

問二 A 一行目を、奏の側から述べる受け身の文へ書き換えなさい。

問二 B 二行目を、作品の側から述べる受け身の文へ書き換えなさい。

七 自分のことばで説明しよう

問一 能動文と受け身文で、出来事が同じでも何が変わるのか、四十～六十字で説明しなさい。

問二 使役の文を読むとき、形から読めることと、文脈で確かめることを、四十～六十字で説明しなさい。

説明の手掛かり

働きかける人、実際に動く人、誰の側から述べるか、強制・許可を分けます。

八 この回のまとめ

一	二	三
能動と受け身は、同じ出来事を別の人物の側から述べられる。	使役では、働きかける人と実際に動く人を分ける。	迷惑・喜び、強制・許可は、形だけでなく文脈で確かめる。
学習を終えて		
主語と動作主を分けて人物関係を整理できた。		
能動と受け身を、述べる側を変えて書き直せた。		
受け身・使役の形から感情や強制を決めつけなかった。		

総合問題へ

第二冊で学んだ範囲・否定・時間・人物の向きを、乗合バスの運行記録と案内文を通して組み合わせます。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解か不正解かだけで終わらず、どの範囲・時間・人物を見たかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え A は職人の側、B は奏の側。

見るところ 主語として前に置かれた人物が、出来事を見る入口になります。

問二

答え 参加者

見るところ 職人は働きかける側で、「すく」動作を行うのは参加者です。

問三

答え 決められない。使役の形は参加者が動作することを示すが、強制か許可かまでは示さない。

見るところ 人物の役割と、本人の希望・受け取り方を分けます。

二 人物の役割をほどいてみよう

問一

答え 職人が奏へ教える関係は同じで、出来事を述べる側が職人から奏へ変わる。

見るところ 出来事の向きと、主語・視点の違いを分けます。

問二

答え 主語は職人、実際にすく人は参加者。

見るところ 使役では、主語と中心動作の動作主が別になることがあります。

問三

答え 奏が職人から教えられたことは分かるが、迷惑・感謝などの気持ちは分からない。

見るところ 受け身の形が示す役割と、感情を分けます。

三 文法で整理しよう

問一

答え 生徒

見るところ 先生は働きかける主語で、読む動作を実際にするのは生徒です。

四 意味の違いを確かめよう

問一

答え 古い額は修復員に直された。

見るところ 額を主語へ置き、動作主を「に」で示します。

別解例 古い額が、修復員によって直された。

☆自己採点の観点 直した人は修復員のまま、述べる側が額になっているか。

問二

答え エ

見るところ 直した人・時刻・方法は変わらず、額の側から述べる形になります。

問三

答え ウ

見るところ 「自由に」が、走り方を選ぶ余地を示しています。

問四

答え 形が示すのは人物の役割や出来事の向きで、受け取り方や本人の希望は文脈で決まるから。（四十一字）

見るところ 文法形式と、感情・意図を分けます。

別解例 受け身でも感謝する場面があり、使役でも本人の希望を認める場面があるため。（三十六字）

☆自己採点の観点 ①形だけでは決まらない、②感情・強制は文脈、を含める。

五 文章の中で読もう

問一

答え ア

見るところ 主語「奏」が、教える出来事を受けた側として前に置かれています。

問二

答え 働きかけた人は新井さん、木杵を動かした人は参加者。

見るところ 使役の主語と、中心動作の動作主を分けます。

問三

答え 奏が申込書で紙すきを希望し、名前を呼ばれるとすぐ水槽へ向かったと書かれているから。(四十一字)

見るところ 使役の形ではなく、奏の希望と行動を根拠にします。

別解例 奏は紙すきを希望欄に書き、順番が来るとすぐ水槽へ向かったため、本人が望んだ体験だと分かる。(四十五字)

★自己採点の観点 ①申込書の希望、②順番が来たあとの行動、のいずれかを根拠にする。

問四

答え イ

見るところ 止める出来事は読めますが、感情を示す表現はこの一文にありません。

六 人物の役割を整理して、書き換えてみよう

問一 A

答え 奏が紙作りを希望したので、新井さんは奏に和紙をすかせた。

見るところ 働きかける人、実際にすく人、奏の希望を入れます。

別解例 新井さんは、体験したいという奏の希望を受け、奏自身に紙をすかせた。

★自己採点の観点 ①新井→奏、②奏がすく、③奏の希望、を含める。

問一 B

答え 見学者は、安全のため係員に区域の外へ出された。

見るところ 見学者を主語にし、係員の働きかけと安全上の事情を示します。

別解例 見学者は係員に止められ、安全な区域へ戻された。

★自己採点の観点 ①見学者の側、②係員の働きかけ、③安全のため、が伝わるか。

問二 A

答え 奏は職人から手順を説明された。

見るところ 奏を主語にし、説明した人を残します。

別解例 奏は、職人によって手順を説明された。

★自己採点の観点 説明した人と受けた人を入れ替えていないか。

問二 B

答え 作品は保存会によって展示された。

見るところ 作品を主語へ置き、展示した保存会を示します。

別解例 作品は保存会に展示された。

｜ **ほかの答え方・考え方** 人以外の物も、出来事の対象として受け身文の主語にできます。

★ **自己採点の観点** 展示したのは保存会のまま、作品の側から述べているか。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え 動作をする人と受ける人の関係は同じだが、主語が変わり、出来事を述べる側が変化する。（四十一字）

見るところ 出来事は同じ、述べる側は異なる、の二点を対比します。

別解例 能動文は動作主を、受け身文は動作を受ける人や物を主語にして、同じ出来事を述べる。（四十字）

★ **自己採点の観点** ①同じ出来事、②主語、③述べる側、を含める。

問二

答え 形から働きかける人と実際に動く人を読み、強制・許可や本人の希望は文脈で確かめる。（四十字）

見るところ 形から言える人物役割と、形だけでは言えない意図を分けます。

別解例 使役では主語と動作主を区別できるが、無理にさせたか機会を与えたかは別の記述を見る。（四十一字）

★ **自己採点の観点** ①働きかける人、②動く人、③強制・許可は文脈、を含める。

運行記録から、意味の範囲を読む

――乗合バスの時刻表・記録・案内文

第二冊 総合問題

1	2	3	4	5
意味の違いに気づく	範囲や時間を整理する	文法で確かめる	文章で読み分ける	自分の文を整える

この回で大切にすること

一つの運行記録の中で、含まれる便の範囲、否定の及び方、出来事の時間、案内・折り返しに関わる人物を続けて読みます。最後は、誤解を招く案内を具体的な文へ直します。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	基礎→標準 一部は、少し深く考える問題

名前

取り組んだ日

和会塾

一 運行記録を読む

次の時刻表と文章を読みます。●は運行、△は途中で折り返し、×は運休です。

便	駅前を出発	川通り	東診療所	北公園
7:30	●	●	●	×
9:00	●	△	×	×
13:00	×	×	×	×
16:30	×	×	×	×

一 町の乗合バス「みずべ号」は、平日に七時三十分、九時、十三時、十六時三十分の四便を運行している。駅前を出て、川通り、東診療所、北公園を順に回る。九月十六日、北橋の補修工事が始まり、北公園へ向かう道が閉鎖された。運行係は朝の点検を終えると、四便すべてを走らせる予定で運転手へ連絡した。

二 七時三十分便は定刻に出発した。七時四十五分、バスは川通りを走っていた。そのまま東診療所まで進み、駅前へ戻った。診療所まで走ったのは、この便だけだった。九時便も出発したが、川通りで工事車両が増えた。運行係の佐野さんは無線で運転手の有馬さんへ折り返しを指示し、有馬さんは乗客へ事情を伝えたあと、安全な場所でバスの向きを変えた。

三 午後になると工事車両がさらに増えたため、十三時便と十六時三十分便は運休になった。事務所の記録係は下書きに「予定した便はすべて運行しなかった」と入力した。それを見た佐野さんが「これでは四便とも駅前を出なかったようにも見えるが、午前の二便は出発している」と声をかけた。記録係は運行表を確かめ、「四便のうち二便を運行し、午後の二便は運休した」と直した。

四 東診療所で待っていた利用者の千秋さんは、案内係に七時三十分便へ案内された。案内係は工事予定を見て、九時便では診療所へ着けないかもしれないと考え、出発前の便を知らせたのである。千秋さんは帰宅後、事務所へ「早い便を教えてもらえて助かった」と連絡した。一方、有馬さんが折り返しの指示をどのように受け止めたかは、その日の記録にも乗務日誌にも書かれていなかった。

五 事務所は翌朝の掲示に、「午前便だけ運行します。北橋は閉じています」と記した。北橋の前には工事用の柵が置かれ、作業員が通路をふさいだまま補修を続けている。七時四十五分には、始発のバスが再び川通りを走っていた。停留所の時刻表には四つの発車時刻が並び、別の案内板には「みずべ号は平日に運行しています」と書かれている。工事が終わるまで、係は毎朝、運行できる便と到達する停留所を掲示することにした。

二 含まれる範囲を確かめる

問一 東診療所まで走った便を、時刻表から答えなさい。

問二 「診療所まで走ったのは、七時三十分便だけだった」で限られているものを答えなさい。

問三 「午前便だけ運行した」が表す内容として最も適切なものを選びなさい。

ア	午前のうち、一便だけが運行した。
イ	午前便も午後便も、すべて運行した。
ウ	運行した便の範囲が午前便に限られた。
エ	午前便は東診療所だけを通過した。

問四 「七時三十分便だけ」と「東診療所だけ」では、何の範囲が異なりますか。三十字以上五十字以内に説明しなさい。

三 否定と時間を読み分ける

問一 「予定した便はすべて運行しなかった」から考えられる二つの読みを、短く書きなさい。

問二 当日の事実が一つに伝わる書き方として最も適切なものを選びなさい。

ア	四便のうち午前の二便を運行し、午後の二便は運休した。
イ	予定した四便は、すべて同じ経路を運行しなかった。
ウ	午前便も午後便も、どの便も一度は駅前を出発した。
エ	七時三十分便しか東診療所を出発しなかった。

問三 「七時四十五分、バスは川通りを走っていた」の「ていた」は、進行・結果の状態・習慣のどれですか。

問四 「北橋は閉じている」の「ている」は何を表しますか。補修工事との関係も含めて答えなさい。

問五 「みずべ号は平日に運行している」が表す時間の見え方を答えなさい。

四 人物の向きを確かめる

問一 「千秋さんは案内係に七時三十分便へ案内された」は、誰の側から出来事を述べていますか。

問二 この案内が千秋さんにとって役立つものだったと分かる表現を、第四段落から抜き出さない。

問三 「運行係は運転手に川通りで折り返させた」で、働きかけた人と、実際に運転した人を答えなさい。

問四 問三の文だけから、運転手が折り返しを嫌がったと決められない理由を、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

五 文章全体で確かめる

問一 当日の運行を最も正確にまとめた文を選びなさい。

ア	四便すべてが北公園まで運行し、午後だけ経路を変えた。
イ	七時三十分便だけが出発し、ほかの三便はすべて運休した。
ウ	午前二便は同じ終点まで走り、午後二便も駅前を出発した。
エ	午前二便は出発したが到達範囲が異なり、午後二便は運休した。

問二 次の四文を、本文・時刻表と合えば○、合わなければ×としなさい。

(一)	七時三十分便は東診療所まで走った。	()
(二)	九時便は北公園まで走った。	()
(三)	午後の二便は駅前を出発しなかった。	()
(四)	案内係が千秋さんを早い便へ案内した。	()

問三 運行記録を読むために、範囲・否定・時間の三つをどう使いましたか。四十～六十字で説明しなさい。

問四 受け身・使役の形を読むとき、本文のどの情報を別に確かめる必要がありますか。二つ答えなさい。

六 誤解のない案内へ書き換える

次の案内だけでは、運行した便の数、九時便の到達点、案内をした人が曖昧です。下の場面メモに従い、三～四文へ直します。

元の案内 予定した便はすべて運行しませんでした。午前便だけ走っていて、九時便の利用者は案内されました。

項目	場面メモ
運行	7:30・9:00 は出発／13:00・16:30 は運休
到達	7:30 は東診療所／9:00 は川通りで折り返し
案内	案内係 → 千秋：7:30 便を案内
橋	補修工事後、閉鎖状態が継続

問一 場面メモの情報が一つに伝わるよう、元の案内を三～四文へ書き換えなさい。

問二 元の案内のどこが曖昧で、どのような言葉を補いましたか。四十～六十字で説明しなさい。

六 誤解のない案内へ書き換える（続き）

書き換え・説明の手がかり

書き換えた文で人物の役割を確かめ、最後に四回の読み方を順序立てて説明します。

問三 「千秋さんは案内係に七時三十分便へ案内された」を、案内係の側から述べる能動文へ直しなさい。

問四 第二冊の四回の学びを使う順序を、「範囲」「文脈」の二語を使い、四十～六十字で説明しなさい。

総合問題 解答・解説

答え合わせの仕方

四回の用語名を当ててるのではなく、時刻表と本文のどこを根拠にしたかを確認めます。書き換えは、必要な運行情報と人物の役割が一つに伝わるかで自己採点しましょう。

二 含まれる範囲を確かめる

問一

答え 七時三十分便

見るところ 時刻表で東診療所が●の便を見ます。

問二

答え 東診療所まで走った便の範囲。

見るところ 場所ではなく、条件に当てはまる便を限っています。

問三

答え ウ

見るところ 「午前便」が運行する便の範囲を限ります。一便だけという意味ではありません。

問四

答え 前者は東診療所まで走った便を七時三十分便に限り、後者は走った場所を診療所に限る。（四十字）

見るところ 便の集合と、行き先の集合を分けます。

別解例 「七時三十分便だけ」は便の範囲、「東診療所だけ」は到達した場所の範囲を限る。（三十八字）

☆自己採点の観点 ①前者は便、②後者は場所、を含める。

三 否定と時間を読み分ける

問一

答え 四便とも運行しなかった読みと、運行した便もあるが四便全部ではない読み。

見るところ 全部否定と一部否定を分けます。

問二

答え ア

見るところ 運行二便・運休二便を具体的に示し、否定範囲を一つにしています。

問三

答え 進行

見るところ 七時四十五分という観察時に、走る動作の途中です。

問四

答え 補修工事で閉鎖され、その閉じた状態が続いていること。

見るところ 閉じる動作の途中ではなく、変化の結果です。

問五

答え 平日ごとに運行する反復・習慣。

見るところ 一台が走行中という意味ではなく、曜日ごとの運行です。

四 人物の向きを確かめる

問一

答え 案内を受けた千秋さんの側。

見るところ 受け身文の主語が、出来事を見る入口です。

問二

答え 「早い便を教えてもらえて助かった」

見るところ 受け身の形ではなく、千秋さん自身の報告を感情の根拠にします。

問三

答え 働きかけた人は運行係、実際に運転した人は運転手。

見るところ 使役の主語と中心動作の動作主を分けます。

問四

答え 使役の形は運転手が折り返したことを示すが、その指示への運転手の気持ちは述べていないから。（四十四字）

見るところ 人物の役割と感情を分けます。

別解例 運行係の働きかけと運転手の動作は分かるが、嫌だったかどうかを示す言葉はないから。（四十字）

☆自己採点の観点 ①役割は読める、②気持ちは書かれていない、を含める。

五 文章全体で確かめる

問一

答え エ

見るところ 午前二便の到達点は異なり、午後二便は出発していません。

問二

答え (一)○ (二)× (三)○ (四)○

見るところ 時刻表と第二～第四段落を照合します。

問三

答え まず便や場所の範囲を分け、否定された便を数え、時刻ごとに走行中か運休かを確かめた。(四十一字)

見るところ 範囲→否定→時間の順に、資料と照合します。

別解例 どの便・場所を述べるか整理し、運行しない範囲と各時刻の状態を時刻表から判断した。(四十字)

☆自己採点の観点 ①範囲、②否定、③時間、の三点を含める。

問四

答え 本人の気持ちと、強制・許可など働きかけの事情。

見るところ 人物の役割は形から、受け取り方や意図は本文から確かめます。

六 誤解のない案内へ書き換える

問一

答え 午前の七時三十分便と九時便は運行しました。七時三十分便は東診療所まで進み、九時便は川通りで折り返しました。午後の二便は運休です。千秋さんには案内係が七時三十分便を案内しました。

見るところ 運行範囲、各便の到達点、午後の運休、案内の動作主を分けて書きます。

別解例 当日は午前二便だけを運行しました。七時三十分便は東診療所へ、九時便は川通りで折り返しました。午後二便は運休し、案内係は千秋さんを七時三十分便へ案内しました。

｜ほかの答え方・考え方 橋の情報を加えるなら「北橋は補修工事のため閉鎖されています」と別文にできます。

☆自己採点の観点 ①午前二便運行、②到達点の違い、③午後二便運休、④案内係→千秋、を確かめる。

問二

答え 否定の範囲と各便の到達点、案内した人が不明だったため、便名・場所・動作主を具体的に補った。(四十五字)

見るところ 曖昧だった三点と、補った表現を対応させます。

別解例 「すべて」「午前だけ」「案内された」の範囲や人物が曖昧なので、時刻・終点・案内係を明示した。（四十六字）

☆自己採点の観点 ①曖昧な範囲、②到達点、③案内者、④補った語、を含める。

問三

答え 案内係が千秋さんを七時三十分便へ案内した。

見るところ 案内係を主語にし、出来事の向きは変えません。

別解例 案内係は、千秋さんに七時三十分便を案内した。

☆自己採点の観点 案内した人と受けた人を入れ替えていないか。

問四

答え まず助詞と述語から範囲・時間・人物を整理し、一文で決まらない部分を時刻表や文脈へ戻って選んだ。（四十七字）

見るところ 一文内の整理と、資料・文章へ戻る段階を順に書きます。

別解例 範囲、否定、時間、人物の向きを文の形から見て、足りない情報は前後の文脈と表で確かめた。（四十三字）

｜ほかの答え方・考え方 四回の項目名を並べるだけでなく、形を見る→文脈へ戻るという手順を示します。

☆自己採点の観点 ①範囲、②文脈、③一文の形、④資料へ戻る、を含める。

『文法で意味を読む』

第二冊 範囲・時間・動作の向きを読む

書誌

教材名	『文法で意味を読む』第二冊 範囲・時間・動作の向きを読む
版	第二冊完成版
発行日	2026 年 8 月 12 日
制作・発行	和会塾（なごらいじゅく）
ウェブサイト	https://kokugo-senka.top/

利用について

本教材は、個人の学習、家庭学習、和会塾の指導で利用するために制作したものです。教材の全部または一部を、許可なく転載・再配布・販売することはお控えください。

改訂について

実際の学習や指導で得られた気づきをもとに、設問・解説・紙面を改訂することがあります。内容についての連絡は、和会塾ウェブサイトのお問い合わせフォームからお寄せください。